

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472001328
法人名	株式会社ツクイ
事業所名	ツクイ平塚徳延サンフラワー
訪問調査日	平成24年3月15日
評価確定日	平成24年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472001328	事業の開始年月日	平成18年2月1日	
		指定年月日	平成18年2月1日	
法人名	株式会社ツクイ			
事業所名	ツクイ平塚徳延サンフラワー			
所在地	(254-0902) 神奈川県平塚市徳延631-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成24年4月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の尊厳を守り、ご利用者が住みなれたところで、その人らしく、安心したなじみの生活が継続できるよう、努めています。また、ご家族との絆を大切にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年3月15日	評価機関 評価決定日	平成24年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①経営は福祉で有名なツクイである。ツクイは福祉の総合会社であり、訪問入浴介護から福祉に取り組み、訪問介護、居宅介護支援、グループホーム、デイサービス、有料老人ホームを展開し、また、関連機関のひまわり福祉会では特養、老健を運営し、ネットワークは北は北海道から南は沖縄県まで展開している。グループホームは、神奈川で横須賀(2箇所)、川崎、横浜、三浦、厚木、平塚、小田原、湯河原の9箇所を展開している。立地としては、JR平塚駅からバスで12～3分、徒歩3分の金目川沿いに開発された比較的新しい住宅地であり、東京・横浜方面へ通勤する平塚のベッドタウンとして開発が進んでいる地域である。金目川沿いは昔から桜の名所であり、リビングの前にもその桜の木があり、春を知らせてくれている。川沿いは桜の時期でなくても格好のお散歩コースであり、お天気ならば必ず散歩に出かけている。理念については、ツクイには社訓、行動規範があり、それに沿って徳延の理念を作成している。今年度の行動規範は「法令順守」である。会社の命令は職員の善意に甘えず、労働基準法に沿った人材管理(サービス残業の排除等)を求められており、そう云う意味も含め、法に適応した体制作りを推進している。

②ケアの方針としては、個人ケア(パーソン・センタード・ケア)に徹している。入所に際しては、パーソン・センタード・ケアやセンター方式の一部を応用した独自のアセスメント表、途中のチェックに於ける再アセスメント表、モニタリングシートを併用して展開している。利用者担当を置き、利用者担当は利用者の日常的な事の把握、カンファレンスにおける担当利用者に関する発信者となり、一緒にモニタリングを行う体制としている。これらを元に、課題を挙げてカンファレンスを実施している。

③地域との関係では、自治会へはまだ加入できていない。役員も交代した時期でもあるので、来年度は再アプローチしてみたい。但し、ご近所との関係は良好である。自治会行事のお祭りや、どんど焼には参加している。ツクイ徳延の夏祭りは、行政からテントや綿菓子機を借り、ご近所に案内し、生バンドを呼んで賑やかに催され、フラダンスも来訪して盛大に実施した。細かい所では、ゴミ置き場の提供や、リーズナブルにした自販機(緊急時活用可能なもの)の設置、AED装置の設置等で、ご近所に活用頂ける体制を少しずつ作って提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ツクイ平塚徳延サンフラワー
ユニット名	桜（1階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ掲示してある。	ツクイには社訓・経営理念があり、行動規範が設けられ、その下に徳延の理念がある。行動規範は「法令順守」である。会社の命令は職員の善意に甘えず、労働基準法に沿った人材管理（サービス残業の排除等）を求められており、そう云う意味も含めた法に適應した体制作りを推進している。社訓は周知のため、毎朝、唱和を実施している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事、地域活動への参加で交流を深めている。また、ボランティアに来ていただいている。	自治会へはまだ加入できていない。役員も交代した時期でもあるので来年度は再アプローチしてみたい。但し、ご近所との関係は良好である。自治会行事のお祭りやどんど焼には参加している。ツクイ徳延の夏祭りは行政からテントや綿菓子機を借り、ご近所に案内し、生バンドを呼んで、フラダンスにも来てもらい、盛大に実施した。細かい所では、ゴミだしの場所の提供や、自販機（緊急時活用可能なもの）の設置、AED装置の設置等で、ご近所に活用頂ける体制を少しずつ作っている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内にベンチを設置して地域の休憩の場として提供している。地域住民と入居者の接点となる様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、運営報告や入居者様の日々の様子を伝え、参加者と意見交換を行いサービスに活かしている。具体的に一緒にできる事を検討し始めている。	運営推進会議の現在のメンバーは地域包括支援センターの方と、ご家族であるが、民生委員には参加の承諾を頂いている。定期的開催し、運営報告や入居者様の日々の様子を伝え、参加者と意見交換を行いサービスに活かしている。具体的に一緒にできる事を検討し始めている。現在、共用型デイの指定を受けているので取り組みを検討してみたい。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員に定期的に訪問していただき、利用者とお話しをして、実情を把握していただいている。感想をお聞きし、施設のサービス・質の向上に取り組んでいる。	平塚市に依頼書を出し、市の介護相談員に1ヶ月に1回訪問してもらい、利用者と話しをして、実情を把握して頂いている。感想をお聞きし、施設のサービス・質の向上に取り組んでいる。社協の世話で行われている市のグループホーム部会の事例発表会に参加し、報告をした。地域包括支援センターとは、相談、イベント案内等でお付き合いがある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に沿って行っている。日中、鍵を掛けないケアを行っている。また、身体拘束ゼロを浸透するよう、日常のケアで注意をしている。	身体拘束をしないケアの実践については、理念に沿って行っている。身体拘束をしないケアについては、身体拘束廃止マニュアルに沿って展開している。身体拘束ゼロを浸透するよう、日常のケアで注意をしている。鍵は日中、鍵を掛けないケアを行っている。言葉については、NG用語集を作成・配布し、注意を喚起している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に沿っておこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を多くしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族と契約書の読み合わせを行い疑問点には十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とお話の機会を設けホームに対しての意見等、どんな些細な事も受け止め運営に反映させる。	運営に関するご家族の意見については、運営推進会議時や来訪時に、ご意見を聴き、反映するよう努めている。運営推進会議は全家族に案内し、イベントと併設で行うので、かなりの方の出席がある。利用者とはお話の機会を設け、ホームに対しての意見等、どんな些細な事も受け止め、運営に反映させるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、個人面談を行い意見や提案を聞く場を設けている。	会議、カンファレンス、個人面談を行い意見や提案を聞く場を設けている。個人面談は年1～2回（特に更新時）、また必要に応じ随時行い意見を聞いている。朝礼時には本部からのインターネットで来る毎日の情報を伝えている。キャリアパスはツクイ全体で確立している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ面談を行い各自の意見を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修を毎月行う他外部の研修にも積極的に参加し職員全体の意識向上、育成を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市グループホーム連絡会の参加や運営推進会議の開催で連携を取っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に本人、家族と個別に面接し十分に話を聞き、入居に関して不安のない様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時だけでなく、その都度家族の相談を聞き入れる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がGHに適していない場合や医療が必要になった場合は、他サービス事業所、医療機関を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る力を大切にし物事を職員と一緒に作り上げていく機会を多く持つことで支えあい共感できている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のお知らせや状態の報告、又家族対応での受診等、連携を持って、本人の理解を共に深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問は日常的に有り、一緒に過ごす時間を自由に作って頂ける。又サークルの参加を継続出来る様支援しその中の友人関係を維持している。	家族や友人の訪問は日常的に有り、一緒に過ごす時間を自由に作って頂ける。また、サークルの参加を継続出来るよう支援し、その中の友人関係を維持している。利用者の心に残る場所や馴染みの場所へもお連れするよう支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の人柄を職員全体が理解し利用者同士がよいコミュニケーションを取れる様繋ぎ役となりながら見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関へ入院された方には時々面会に行く		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意思を表現出来るような声掛けや場面作りを心掛け困難な人に対しては表情や少ない言葉から気持ちを汲み取る様勤めている。	本人の希望や意思を表現出来るような声掛けや場面作りを心掛け、困難な人に対しては、表情や少ない言葉から気持ちを汲み取るよう努めている。本人の言葉は「」書きで記入し、ゆっくりじた時間に、個別に聴いている。喪失感回復のため、何かやってもらったら「ありがとう」を忘れずに言うよう心がけている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報収集を行い、日常会話の中からも聞かれてくる大切な情報も記録しておく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを行い項目に分けて話し合いその人全体を把握する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を伺うと共にカンファレンスや会議を開いて意見も出し合いそれを反映させる。	本人と家族の要望を伺うと共に、カンファレンスや会議を開いて意見も出し合い、それを反映させる。カンファレンスは、モニタリングから課題を挙げ、原案を作成した上で開催する。利用者担当は、一緒にモニタリングを実施し、日常的な事項を把握し、発言する体制である。介護計画のベースは、センター方式、パーソンセンタードケアをベースに構築されている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は具体的に記入し色分けもしている。職員は常に目を通し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域イベント参加、健康運動の再参加を検討中。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーマーケットやドラッグストアで利用者と買い物に行き、地域資源をいかしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から2週に一回の往診があります。また、ご家族と相談してかかりつけ医の受診の支援をしている。	協力医療機関から2週に一回の往診があり、2、3名が受診している。（残りの方は家族による通院。）往診は月2回である。訪問歯科は週1回、認知症専門のこころクリニックは28日に1回の往診がある。調剤薬局も区分けを含めた協力を頂いており、希望により訪問マッサージも利用できる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び医療連携の看護師と相談し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通して、病院関係者との情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の協力を得て、重度化や終末期に向けた話し合いを、必要な時に行っている。	かかりつけ医の協力を得て、重度化や終末期に向けた話し合いを、必要な時に行っている。入居時同意書を頂いているが、終末期に近づいた時点で医師を含め3者で話し合い、方向性を決めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は緊急時対応として、状況把握、バイタルサインの確認を行っている。訓練については定期的に行っていくよう努める。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施して、火災、地震等の発生時に安全に非難ができるようにしている。	避難訓練を実施して、火災、地震等の発生時に安全に非難が出来る様にしている。東日本大震災以降、平塚市のハザードマップを確認した。（平塚市に危機管理課がある）この建物は耐震構造になっている。防災のスプリンクラー、自動通報装置、懐中電灯、ラジオなどは揃えて対策を講じている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの向上には日々努力をしている。また、否定語は使わないようにしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について、職員は接遇マナーの向上に日々努力して対応している。また、否定語は遣わないように対応している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから、適切な声かけをして、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者のあるがままを受け入れ、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った物で、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう、いつも気をつけている。理美容については定期的に訪問してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け、片付け等出きることを一緒に行い、食事はいつでも職員も同じテーブルで食べ会話しながら楽しめている。飲み物、おやつ、たばこ等希望を聞いて日常的に個々に合わせている。	買い物は現金で行わず、食材は地元の商店に月末締めで発注し、配達してもらっている。メニューは利用者の意見を聞きながら独自で作っている。調理の下ごしらえや盛り付け、片付け等、出来ることを一緒に行い、食事はいつでも職員も同じテーブルで食べ、会話しながら楽しめている。飲み物、おやつ、たばこ等、希望を聞いて日常的に個々に合わせている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形態を個々の状態に合わせて提供している。(味や好み、大きさ、軟らかさを考慮)食事・水分共に毎回摂取量を把握することで目を向けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自立している人には声掛けを行う。くるりーなブラシや義歯消毒等含め、状態に応じて半介助、全介助もを行っている。希望者は訪問歯科の歯科衛生士による口腔ケアも受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンは毎日記録しているので声掛けや誘導が必要な人の失敗も防げておりトイレでの排泄を大切に考えている。オムツはこまめに交換して不快感を防いでいる。	排泄の介助は尊厳ケアの重要な部分であり、充分配慮している。排泄のパターンは毎日記録しているので、声掛けや誘導が必要な人の失敗も防げており、トイレでの排泄を大切に考えている。オムツはこまめに交換して不快感を防いでいる。濡れたから交換するのではなく、早めで適切なトイレ誘導を心がけている。水分の量も1つのファクターとなっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩の実施、野菜を多く取る事や適度な乳製品の提供、水分不足にならない様摂取量の把握をいつも行っている。排泄のリズムを整える事に向け免疫力を向上させる為にも朝食時乳酸菌飲料を提供し快便につなげるよう取り組み始めた。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の入浴を行っている。その都度声掛けして時間の要望やタイミングに合わせた入浴が出来ればよい。その方の入浴習慣に合わせ、いつでも入浴できる体制を確立していきたい。	入浴は1対1で支援している。その都度声掛けを行ない、本人の時間の要望やタイミングに合わせた入浴が出来るよう努めている。その方の入浴習慣に合わせ、いつでも入浴できる体制を確立していきたいと努めている。ご家族が薬草を持ってきて入れる、また、茶葉を乾燥して入れ、徳延温泉と称し、喜んで入って頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フローと居室をそれぞれ自由に行き来し、横になりたい時や一人で過ごしたい時には居室で過ごされている。又その際にはさりげなく見守り、安全を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分かりやすい表示を薬につけ、確実な与薬を行っている。どのような薬を服用しているのかを職員全体で理解しており、変化については申し送りやノートを通じて確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を理解し、生活の中で出来ることを無理なくやって頂いている。又レクや散歩、外出なども好みや希望を大切に考え対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外へ出る機会を作るよう心掛けており、希望にも対応している。	出来るだけ外へ出る機会を作るよう心掛けており、希望にも対応している。お散歩には毎日出かける他、買い物外出、ドライブ、外食、遠出など行っている。金目川の土手は散歩に最適で、桜は見事であり、利用者は楽しい一時を持たれている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理について、入居者、家族の意見を聞き、お金の所持や使うことを支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙共にいつでも希望に応じて使用して頂いている。又家族からの電話や手紙もあり、継続的に支援できている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りや絵を利用者と制作してフロアに飾っている。場所や時間に応じ落ちつきや楽しさを感じてもらえる様明るさや音楽も配慮している。	リビングは皆で寛げる場所であり、台所の横の壁をギャラリーと考え、季節ごとの飾りや絵を利用者と制作して飾っている。場所や時間に応じ、落ちつきや楽しさを感じてもらえる様、明るさや音楽も配慮している。利用者の能力を利用して、パッチワークのクッションカバーを作ってもらった。物作りはイベントとしてではなく、日常的な生活の一部となればよいと考えている。手形をデフォルメした作品も面白かった。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に畳のコーナーもある。又テーブルや椅子の位置、ソファの位置も配慮し、思い思いにくつろげる様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はプライベートな空間であり自由に持ち込める事となっている。	居室にはエアコン、クローゼット、照明器具が常備され、居室内はプライベートな空間として、自宅で使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き、自分の部屋として安心して過ごせるように工夫している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の理解力を把握してスムーズに動ける様な工夫を常に考えている。色や文字、配置の工夫で認識しやすくしている。		

事業所名	ツクイ平塚徳延サンフラワー
ユニット名	梅 (2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ掲示してある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事、地域活動への参加で交流を深めている。また、ボランティアに来ていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内にベンチを設置して地域の休憩の場として提供している。地域住民と入居者の接点となる様努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、運営報告や入居者様の日々の様子を伝え、参加者と意見交換を行いサービスに活かしている。具体的に一緒にできる事を検討し始めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員に定期的に訪問していただき、利用者とお話しをして、実情を把握していただいている。感想をお聞きし、施設のサービス・質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に沿って行っている。日中、鍵を掛けないケアを行っている。また、身体拘束ゼロを浸透するよう、日常のケアで注意をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に沿っておこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を多くしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族と契約書の読み合わせを行い疑問点には十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とお話の機会を設けホームに対しての意見等、どんな些細な事も受け止め運営に反映させる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、個人面談を行い意見や提案を聞く場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ面談を行い各自の意見を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での研修を毎月行う他外部の研修にも積極的に参加し職員全体の意識向上、育成を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市グループホーム連絡会の参加や運営推進会議の開催で連携を取っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に本人、家族と個別に面接し十分に話を聞き、入居に関して不安のない様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時だけでなく、その都度家族の相談を聞き入れる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がGHに適していない場合や医療が必要になった場合は、他サービス事業所、医療機関を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る力を大切に物事を職員と一緒に作り上げていく機会を多く持つことで支えあい共感できている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のお知らせや状態の報告、又家族対応での受診等、連携を持って、本人の理解を共に深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問は日常的に有り、一緒に過ごす時間を自由に作って頂ける。又サークルの参加を継続出来る様支援しその中の友人関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の人柄を職員全体が理解し利用者同士がよいコミュニケーションを取れる様繋ぎ役となりながら見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関へ入院された方には時々面会に行く		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意思を表現出来るような声掛けや場面作りを心掛け困難な人に対しては表情や少ない言葉から気持ちを汲み取る様勤めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報収集を行い、日常会話の中からも聞かれてくる大切な情報も記録しておく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを行い項目に分けて話し合いその人全体を把握する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を伺うと共にカンファレンスや会議を開いて意見も出し合いそれを反映させる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は具体的に記入し色分けもしている。職員は常に目を通し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域イベント参加、健康運動の再参加を検討中。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーマーケットやドラッグストアで利用者と買い物に行き、地域資源をいかしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から2週に一回の往診があります。また、ご家族と相談してかかりつけ医の受診の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師及び医療連携の看護師と相談し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通して、病院関係者との情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の協力を得て、重度化や終末期に向けた話し合いを、必要な時に行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は緊急時対応として、状況把握、バイタルサインの確認を行っている。訓練については定期的に行っていくよう努める。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施して、火災、地震等の発生時に安全に非難ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの向上には日々努力をしている。また、否定語は使わないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから、適切な声かけをして、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者のあるがままを受け入れ、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った物で、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう、いつも気をつけている。理美容については定期的に訪問してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け、片付け等出きることを一緒に行い、食事はいつでも職員も同じテーブルで食べ会話しながら楽しめている。飲み物、おやつ、たばこ等希望を聞いて日常的に個々に合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形態を個々の状態に合わせて提供している。(味や好み、大きさ、軟らかさを考慮)食事・水分共に毎回摂取量を把握することで目を向けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自立している人には声掛けを行う。くるりーなブラシや義歯消毒等を含め、状態に応じて半介助、全介助も行っている。希望者は訪問歯科の歯科衛生士による口腔ケアも受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンは毎日記録しているので声掛けや誘導が必要な人の失敗も防げておりトイレでの排泄を大切に考えている。オムツはこまめに交換して不快感を防いでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩の実施、野菜を多く取る事や適度な乳製品の提供、水分不足にならない様摂取量の把握をいつも行っている。排泄のリズムを整える事に向け免疫力を向上させる為にも朝食時乳酸菌飲料を提供し快便につなげるよう取組み始めた。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の入浴を行っている。その都度声掛けして時間の要望やタイミングに合わせた入浴が出来ればよい。その方の入浴習慣に合わせ、いつでも入浴できる体制を確立していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フローと居室をそれぞれ自由に行き来し、横になりたい時や一人で過ごしたい時には居室で過ごされている。又その際にはさりげなく見守り、安全を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分かりやすい表示を薬につけ、確実な与薬を行っている。どのような薬を服用しているのかを職員全体で理解しており、変化については申し送りやノートを通じて確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を理解し、生活の中で出来ることを無理なくやって頂いている。又レクや散歩、外出なども好みや希望を大切に考え対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外へ出る機会を作るよう心掛けており、希望にも対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理について、入居者、家族の意見を聞き、お金の所持や使うことを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙共にいつでも希望に応じて使用して頂いている。又家族からの電話や手紙もあり、継続的に支援できている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りや絵を利用者と制作してフロアに飾っている。場所や時間に応じ落ちつきや楽しさを感じてもらえる様明るさや音楽も配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に畳のコーナーもある。又テーブルや椅子の位置、ソファの位置も配慮し、思い思いにくつろげる様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はプライベートな空間であり自由に持ち込める事となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の理解力を把握してスムーズに動ける様な工夫を常に考えている。色や文字、配置の工夫で認識しやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

ツクイ平塚徳延サンフラワー

作成日

平成24年3月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	チームでつくる介護計画とモニタリングで、モニタリングが十分ではない。	モニタリングを十分に行う。	本人、家族、必要な関係者と話し合う機会を増やす。	1ヶ月
2	35	災害対策が十分ではない。	災害に備えた準備をする。	地域住民の協力を得る。	3ヶ月
3	34	夜間の利用者の急変や事故発生時の対応	職員全員が応急手当や初期対応ができる。	定期的な訓練の実施	3ヶ月
4	2	事業所と地域とのつきあいが十分ではない。	地域行事への参加を増やす。	自治会への加入を検討する。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。